

令和6年度研究推進計画

学 校 名東広島市立高屋東小学校

校長名 岩見 文彦

研究主題

筋道立てて考え表現する児童の育成

— 思考過程を整理するための指導の工夫を通して —

1 研究主題について

(1) 研究主題の理由

本校の児童は、令和4年度までの取組によって「課題を明らかにし、見通しを立てて学ぶこと」を学び方のパターンとして身に付けつつある。しかしながら、児童に見通しをもたせることが難しい、見通しをもたせたはずなのに自力解決できた児童が少ないなどの課題が挙げられた。このことから、児童の実態把握が不十分であること、児童の実態にあった適切な指導ができていないこと、見通しのもたせ方が曖昧で児童の自力解決が促されていないことなどが明らかになった。

また、授業の様子や学力調査の結果から、本校の児童の学力は、該当学年の学習内容の定着だけでなく、下学年で習得すべき四則計算の技能、量の概念や基本的な性質の理解などに課題があることが分かった。

そこで、令和5年度は、問題解決のために問題解決のどの過程でどのように「数学的な見方・考え方」を働かせるのかを考えて授業を構成した。その上で、「問いをもつ」「見通しをもつ」過程で解決方法（解法の見通し、方法の見通し、結果の見通し）を考えさせた。これにより、児童は、「数学的な見方・考え方」を働かせながら自ら見通しに従って考え、自力解決したり集団解決したりできるだろうと考え、自ら学ぶ児童の育成をめざした。これにより、児童の学習に向かう姿勢が改善され、粘り強く問題解決に取り組む児童が増え、学力も向上した。

しかし表1の結果から分かるように授業において自分の考えを伝えていないと考えている児童が多いという課題が残った。

表1 算数科における児童アンケートの結果（令和5年12月実施）

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
自分の考えを友達に伝えたり発表したりしている。(人)	とても	15	8	4	6	12	3
	まあまあ	7	8	7	7	11	10
	あまり	4	4	9	6	3	6
	ぜんぜん	0	4	2	1	0	1

そこで今年度は、思考過程を整理するための指導の工夫を通して、児童が自分の考えを筋道立てて表現できるようにテーマを設定する。

(2) 研究仮説

算数科における（思考過程を整理するための指導の工夫）を行えば、児童は筋道立てて表現することができるようになるだろう。

2 研究内容について

理論研修や実践研修を通して、児童が事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考えて表現できる授業の研究を推進する。なお、特別支援学級は、研究主題を踏まえ、児童の実態から研究内容を検討し、研究を推進する。

- ・算数科における児童の課題と目指す姿について
- ・算数科における筋道立てて考え表現する授業の在り方について

3 検証について

検証の指標

検証の視点	方法	検証の指標と目標
児童は筋道立てて考えることができたか。	児童アンケート 授業評価	肯定的回答の割合 (肯定的評価 8 割以上) 肯定的評価の向上 (児童の記述などからの見取り)
児童は自分の考えを表現することができたか。	児童, 教師アンケート 授業評価	肯定的回答の割合 (肯定的評価 8 割以上) 肯定的評価の向上 (児童の記述などからの見取り)

4 校内研修計画

- 4月～5月 研究計画立案, 筋道立てて考える姿について理論研修, ルーブリック作成
- 6月～7月 各クラスの授業を見合って意見交流
- 8月 指導案作成
- 9月～12月 研究授業 (全体研修)
- 1月～3月 研究のまとめ・紀要作成, 研究の成果と課題, 来年度に向けて